

オ)の担当課評価については、以下のA~Dから選択
 A:令和5年度より高い成果があった B:令和5年度並みの成果であった
 C:令和5年度より低い成果であった D:令和6年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和6年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和6年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和6年度の担当課評価	カ)令和7年度の実施方針
基本目標(1)学習情報の収集・発信										
(1)-1	○生涯学習情報の集約	サークル・団体紹介	市民のサークル・団体情報を集め(掲載を希望する団体)、冊子やホームページで情報提供する。	生涯学習課	引き続き、冊子を市内公共施設16か所に設置したほか、市ホームページで情報を公開した。申請に基づき解散した団体の削除や新規団体の登録を行った。	市民のサークル・団体情報の提供につながっている。	問合せを複数件受けており、現在においても一定の活用があることが確認できた。	一斉更新により、サークル・団体情報を最新のものにすることができた。	B:令和5年度並みの成果であった	引き続き、市民のサークル・団体情報を集め、情報提供を幅広く行う。
(1)-2	○生涯学習情報の集約 ○多様な手段での情報発信	生涯学習情報の集約・発信事業	市の生涯学習に関する情報を集約し、多様な手段で情報を発信する。	生涯学習課	引き続き、市HPのトップページに生涯学習関連施設のリンクを掲載している。また、Instagramでの情報発信を開始した。	関連施設HPへのアクセスのしやすさが引き続き担保されている。	特になし。	市HPのトップページに公民館、図書館、財団3館のリンクを並べることで、生涯学習情報の発信が引き続き行われた。Instagram開設により、SNSに親和性の高い層への情報発信を図ることができた。	A:令和5年度より高い成果があった	従来の方法にInstagramも加えて、いっそう充実した生涯学習情報の発信を行う。
(1)-3	○多様な手段での情報発信	公民館だより・図書室月報発行事業	公民館事業および公民館図書室の情報を提供するため、毎月1回広報誌を発行している。今後も公民館事業の発信および周知を図る。	公民館	公民館だより及び図書室月報を月1回発行した。令和6年度「第10回全国公民館報コンクール」(公益社団法人 全国公民館連合会主催)に応募し、「特別賞」を受賞。応募総数75館のうち、金賞4件、銀賞2件、特別賞5件、奨励賞6件という表彰結果全体においての特別賞受賞であった。	公民館事業および公民館図書室の情報を毎月発行していることが市民に認知されており、リニューアルしたホームページやWebの広報と組み合わせることで、より広く周知することができた。	毎月開催する「公民館だより編集委員会」にて、紙面のレイアウトや文章表現の振り返りを行っている。振り返りの内容を次回改善につなげることで、広報誌が読みやすくなり、内容が充実してきているとの声があった。	公民館事業や公民館図書室についての情報提供について、講座等の実施報告(紹介)を今後開催の事業告知と関連付けて展開を図ることができた。	A:令和5年度より高い成果があった	さらに広報誌の内容を充実させながら、ホームページや国立市X、LINE、くにたちメールなどでの発信も積極的に行う。
(1)-4	○多様な手段での情報発信	図書館広報事業	図書館事業の情報を市報や館報、ホームページを使って広く周知し、利用を促進する。	図書館	図書館広報誌「いんふおめーしょん」を12回、YAページを4回発行、くにたちの教育の中の記事の掲載を4回、図書館HP、X、LINE、すぐーるによる広報を随時行った。	図書館事業に関する情報を様々な媒体を通して発信することで、利用の促進につながった。令和6年度からは、LINE、すぐーるでの発信も積極的に行った。	子育て世代への情報発信は、すぐーるが効果的であった。一方で、市報等の紙媒体をご覧になっての問い合わせも依然多いため、多様な手段で情報発信することの重要性を改めて感じた。	市報やくにたちの教育等、記事の大きさに限りがある媒体においては、二次元コードを有効に使い、情報の見やすさに努めた。	A:令和5年度より高い成果があった	様々な媒体を効果的に組み合わせ、より多くの市民に情報が行き届くよう努める。
基本目標(2)学習機会の充実										
(2)-1	○ライフステージに応じた学習機会の充実	いきいき百歳体操の普及推進	高齢者の介護予防として筋力向上とコミュニティづくりを推進するため、おもいを使った筋力運動である「いきいき百歳体操」の普及と効果測定を市内保健師連携により図るとともに、自主的に行うグループを増やしていく。	健康まちづくり戦略室	市内21の自主グループが活動中。グループ同士の情報交換、交流のためのイベントには、12グループ67人が参加した。	1年間で3グループが新規に活動を開始する等、高齢者を中心に生きがいの創出や健康増進に資する事業となっている。	イベント参加者に対し実施したアンケートからは非常に高い満足度であることがうかがえた。	運動習慣を持ち、他者とのつながりを大切にできるよう、各グループを支援することができた。	A:令和5年度より高い成果があった	参加者増を図るため、百歳体操の体験イベントを実施する。引き続きグループ立ち上げ及び継続支援を行う。
(2)-2	○ライフステージに応じた学習機会の充実	国立市青少年国内交流事業	国立市在住の小学6年生を国内に派遣し、歴史・風土・文化に触れ、平和・人権などについての相互理解を深める機会を提供する。	児童青少年課	16名の派遣生を長崎へ派遣。現地青少年との交流や施設見学など2泊3日の行程で実施した。	戦争の悲惨さを学習することにより、平和・人権の大切さを児童が学ぶことができた。	平和と戦争について学べて良かったといった感想などがあった。	コロナウイルス蔓延や台風による現地派遣中止が続く、令和6年度は数年ぶりの現地派遣となった。現地の施設見学や青少年との交流など、現地の空気も感じながら実施できた。	A:令和5年度より高い成果があった	引き続き現地派遣が叶うよう準備していく。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
 A:令和5年度より高い成果があった B:令和5年度並みの成果であった
 C:令和5年度より低い成果であった D:令和6年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和6年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和6年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和6年度の担当課評価	カ)令和7年度の実施方針
(2)-3	○ライフステージに応じた学習機会の充実	グローバルカフェ事業	カフェのような気軽な雰囲気の中で国立市内在住の中高生(企画により小学校高学年児童を含む)と一橋大学の留学生とが交流する機会をつくり、多文化共生の視点を持ち、国際人の一人として行動できる青少年を育成する。	児童青少年課	年度当初より本来の参加定員15名で全6回実施した。毎回のテーマによる留学生の話や英語を使ったゲーム、フリートークタイムにより、楽しい時間を過ごした。延べ参加人数70名(留学生含む)	留学生を講師として招き、参加した子どもが海外や多文化に触れ多文化理解を得ると共に、普段学習している英語を実際のコミュニケーションの中で使うことで、語学を学ぶ価値や自身につなげることができた	海外の方と普段話すことがなかったので、話ができて良かった。色々な国の文化を知れて良かった。英語が通じてうれしかった。などといった意見を参加の中高生からいただいた。	コロナ禍は脱したものの、留学生自体の人数が減っていること、短期留学生が多いことにより、留学生の確保に苦心があった。	B:令和5年度並みの成果であった	日本の学生の留学体験談や、社会人の海外体験談なども実施していきたい。
(2)-4	○ライフステージに応じた学習機会の充実	CMスタッフ事業	国立市内在住又は在学の中高生を対象に、中高生自身の意見の発信や中高生の目線を取り入れた市の情報発信を行う機会を提供することで、中高生の市に対する理解を高めるとともに、社会への参画の意欲を高める。	児童青少年課	これまでのCMスタッフ事業の枠にとらわれず、広い意味で中高生の意見を聴き反映させる取り組みを実施。子どもの権利を保障するための条例「国立市子ども基本条例」の制定に向けて、当事者である子どもの意見を聴取してきた。	「国立市子ども基本条例」の制定に至った。	大人に意見を言ってもいいんだと知った。などという声があった。	当初の計画の基本目標に沿った事業展開が叶わなかった。	A:令和5年度より高い成果があった	「国立市子ども基本条例」の推進を通して、だれも取り残されず子どもが社会参画できる環境整備を整えていく。
(2)-5	○ライフステージに応じた学習機会の充実	児童館小学生体験交流事業	小学生を対象に、遠足等の野外活動、工作・料理などの体験活動、焼き芋、凧作り等の季節行事、合唱・劇団などのクラブ活動等の機会を提供することで、小学生の社会性や自律性を育む。	児童青少年課	実施回数:年間237回 延べ参加人数:9,224人	小学生を対象にした事業を実施し、様々な学びの機会等を提供することで、社会性や自立性を育み、児童の健全育成に寄与することができた。	参加者が増え、各事業盛り上がりがあった。夏まつりなど大きいイベントは、子ども及び保護者から多くの反響があった。	参加者たちに様々な体験の機会を提供することができた。	B:令和5年度並みの成果であった	令和6年度に引き続き、体験の機会等の提供に努め、より多くの小学生に対し社会性や自立性を育む事業を実施する。
(2)-6	○ライフステージに応じた学習機会の充実	青少年キャンプ事業	国立市内在住の小学5年生～中学3年生を対象に、松原村湯久保の古民家に宿泊し、豊かな自然の中での野外活動や学校の違う人と寝食をともにするキャンプを実施することで、自活力、コミュニケーション力を育む。	児童青少年課	夏に源流ハイク、秋に1泊2日のキャンプを行った。 参加人数 源流ハイク:18名(台風により中止) キャンプ:13名	日帰り、宿泊と2回計画し事業展開を広げた。参加人数の定着を目指した。	普段できない体験ができたことと喜ばれた。	夏の日帰り源流ハイク、秋の1泊2日のキャンプという実施方法について今後も同様の形態で行っていく。	B:令和5年度並みの成果であった	参加者の定着、増やすよう展開する。
(2)-7	○ライフステージに応じた学習機会の充実	プレーパーク事業	国立市内在住の18歳までの児童が、ツリークライミングやロープ綱渡り、野外料理、ハイキングなどを行うことができる環境を整備することで、世代間交流の居場所を提供すると共に、児童の本来の力を引き出す機会を提供する。	児童青少年課	実施回数:50回開催 延べ参加人数:3850名	野外活動体験事業として「冒険遊び場キャンプ(1泊2日)」を予定していたが、猛暑が続いたため中止とした。それ以外は、計画していた事業を実施でき、世代間交流の場等も提供できた。	屋外でのびのびと楽しく遊べる場を提供していただきありがたいです。	猛暑においても、タープにより日陰をつくり、水を流しての遊びなど工夫をして実施してはいるが、今後、酷暑が続くような場合には、中止の判断が必要になると考える。	A:令和5年度より高い成果があった	令和6年度に引き続き、世代間交流の居場所提供にも努め、様々な体験活動をとおして、児童自らの育ちを引き出す事業を実施する。

オ)の担当課評価については、以下のA~Dから選択
 A:令和5年度より高い成果があった B:令和5年度並みの成果であった
 C:令和5年度より低い成果であった D:令和6年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和6年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和6年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和6年度の担当課評価	カ)令和7年度の実施方針
(2)-8	○ライフステージに応じた学習機会の充実	高次脳機能障害者支援促進事業	高次脳機能しょうがいを持つ方の集いの場として、主に市役所内でサロンを開設し、楽しみながら脳のリハビリにもなる様々なプログラム(体操、調理、絵手紙、俳句、音楽、書道等)を実施している。	しょうがいしゃ支援課	毎週水曜日(祝日を除く)の13時30分~15時30分、全48回(令和6年4月1日~令和7年3月31日)実施。主に市役所の会議室で実施。	高次脳機能しょうがいを持つ方に集いの場を提供し、当事者同士の交流を促すことができた。	安心して楽しく参加できる場として、当事者・家族や関係団体より評価いただき、今後の事業継続を期待されている。また、他自治体の視察やしょうがいサービス事業所の見学も多く受け入れている。	毎週サロンを実施することで当事者の体調の変化や生活の場の変化などに気づき、先の支援につなぐことができた。	B:令和5年度並みの成果であった	基本的には従来通りの会場参加形式でのサロンを実施する。
(2)-9	○ライフステージに応じた学習機会の充実	家庭教育講座	子育てを学ぶ機会の減少など家庭教育を支える環境の変化により、子どもの保護者への負担が大きくなっている中で、家庭が抱えるさまざまな課題解決の一助とすることを目的に家庭教育講座を実施する。	生涯学習課	令和7年3月20日に家庭教育支援講座「本とお話の楽しみを子どもたちに」を開催し、46名が参加した。	図書館50周年と関連付け、「読書や本が子どもに与える効果」といった本が子どもの成長に与える影響を知ることができた。	実施アンケートでは、「子どもの成長を願ってというお話しが印象に残った」などの声があった。	テーマに関心の高い方が集まり参加者にとって学びの機会につながった。	B:令和5年度並みの成果であった	引き続き、市民の関心の高いテーマについて講座を実施していく。
(2)-10	○ライフステージに応じた学習機会の充実	高齢者向け各種運動事業	高齢者向け社会体育事業として、健康体操教室、街を山を歩くを実施している。	生涯学習課	街を・山を歩く ・実施回数 4回 ・参加延べ人数 137人 ・会場 石神井公園方面他	コロナ禍以降、事業の中止や規模を縮小して実施してきたが、6年度より以前と同数の年4回を開催することができた。	事業後にアンケートを実施し、半数以上から肯定的なご意見を頂いた。	今年度より事業の実施を国立市総合型地域スポーツクラブ「くにたちエール」に委託して実施したが、事業の質や安全性を維持して開催することができた。	A:令和5年度より高い成果があった	引き続き、市民の関心の高いウォーキングイベントを実施していく。
(2)-11	○ライフステージに応じた学習機会の充実	女性・男性・親子・子ども・高齢者向けの事業	世代別および個別の学習機会を提供するため、世代別や性別に応じた様々な事業を展開する。	公民館	女性のライフデザイン講座(通年)や子育て短歌講座(9回)男性の料理講座(年2回)、親子講座(年6回)、シルバークラブ(通年)を実施した。	同じような課題を持つ人達と一緒に学ぶことで、目的意識を共有しながら学習していく機会を提供することができた。	「毎週公民館へ通って学習するのが楽しい」「新しい仲間ができて嬉しい」等の声があり、女性講座等では自主グループが形成されるなどの様子が見て取れた。	学習及び社会参加の機会としての継続講座は、参加者の相互作用により参加者同士の関係が深まる効果があった。担当者はグループづくりの支援に努めた。	A:令和5年度より高い成果があった	新規公民館事業参加者及び自主グループの形成に向けて、周知を図りたい。
(2)-12	○ライフステージに応じた学習機会の充実	しょうがいしゃ青年教室、しょうがいしゃPC事業	しょうがいのある者となりが共に活動し、お互い学び合うことを目的に事業を展開する。今後も共生の地域社会を育む学習機会を提供する。	公民館	主に知的しょうがいしゃを参加者に含む「しょうがいしゃ青年教室」(92回)、「コーヒーハウス」年間交流行事(5回)等を実施。「リカバリーの学校@くにたち」と連携し、精神しょうがい、発達しょうがい、精神疾患等の生きづらさのある市民を参加者に含む講座等を実施。	しょうがいしゃも年間交流行事の実行委員を務めるなど、活動の企画や運営に積極的に参画する役割を担った。しょうがいの有無を超えてともに学び合い楽しむ機会をつくることができた。	しょうがいしゃからは活躍の場があること、保護者からは地域で仲間と関係性を育む機会になることなど、青年教室の成果について声をいただいた。また、ボランティアの若者の参加も年々増加しており、共生に向けた学びが活性化している。	令和5年度に引き続き「リカバリー」の学校@くにたち」の取り組みが定着したことで、参加者の幅が広がり、多様な人たちの交流や学習の時間を充実させることができた。今後は喫茶実習の安定的な実施に向けて、更なる担い手の募集・育成を要する。	B:令和5年度並みの成果であった	「しょうがいしゃ青年教室」では、大学生の卒業等とともにスタッフの入れ替わりが避けられないため、継続性を確保するために、引き続き広報の拡大を行い、さらなる活性化を図りたい。
(2)-13	○ライフステージに応じた学習機会の充実	自立に課題を抱える若者支援事業	若者の自立や社会参画支援を目的として事業を展開する。今後も若者視線で関係機関と連携した共生の地域社会づくりを推進する。	公民館	中高生のための学習支援事業(36回)、中高生のための学習支援事業サテライト版(2回)、自習スペースの設置(通年)、「自立に課題を抱える若者」の支援者養成事業(1回)等を実施。	様々な背景を抱える中高生・若者に対して学習の個別支援や、自習スペースの提供、彼らを支える人材を育む機会を提供することができた。	学習支援に参加する中高生からは、「わからないところをすぐにきける。より多くの人との関わりを持つことができる」「いろんな人とお話をして楽しかった」などの声があった。	令和5年度に引き続き中高生及び大学生等を対象とした自習スペースを安定的に提供した。学習支援では、福祉的課題を抱える学習者への対応や支援者・担当職員に対するアドバイスを市役所スーパーバイザーを市内の社会福祉士に依頼した。	B:令和5年度並みの成果であった	周知の拡大を行い、参加人数の増加を目指すと共に、安定的・効果的な居場所の提供を目指す。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
 A:令和5年度より高い成果があった B:令和5年度並みの成果であった
 C:令和5年度より低い成果であった D:令和6年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和6年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和6年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和6年度の担当課評価	カ)令和7年度の実施方針
(2)-14	○ライフステージに応じた学習機会の充実	生活のための日本語講座、日本語教育入門、にほんごサロン	国籍・文化・言語などの違いを超えて暮らしやすい生活を送ることを目的に事業を展開する。今後も共生の地域社会を育む学習機会を提供する。	公民館	生活のための日本語講座(233回)、日本語教育入門(8回)、にほんごサロン(10回)	地域に暮らす外国人への生活のための日本語学習の機会、地域で日本語支援をしたい人のための学習の機会、多文化共生への考えを深める機会を提供することができた。	日本語講座、にほんごサロンでは、日本語や日本文化について勉強でき、生活が楽しくなったという声、日本語教育入門では早く日本語ボランティアに参加したいという気持ちになった、との声があった。	受講者からの紹介を受けて新規受講につながるケースもあり、本講座等が受講者にとって内実のある学びとなっている様子が伺える。	B:令和5年度並みの成果であった	引き続き学習の機会を提供し、学習を通じて市民との交流もはかる。
(2)-15	○ライフステージに応じた学習機会の充実	児童サービス事業	子どもたちの学習や生活に役立つだけでなく、子どもの豊かな心の育成を目指し、推薦図書リストの作成、調べものの支援及び「えほんのじかん」「おはなしのじかん」「わらべうたであそぼう」などを実施している。また、中高生向けには、YAコーナーの展示や講演会の企画を実施している。対象は、子どもだけでなく、子育てにかかわる親や家族、先生、保育士、ボランティアも含む。	図書館	絵本の読み聞かせやおはなし(素語り)等の定期開催事業を、470回実施した。また、10代向け講演会等の講座を2回、工作や人形劇等のイベントを45回実施した。あわせて、児童向けや10代向けの推薦図書リストを配布している。	定期的にイベントを行うことで、本に触れる機会を創出し、幼児から中高生世代の読書推進につながった。	実施したイベントは概ね好評であり、イベント時に展示していた関連本を借りていく参加者もいた。	市報やHPでの広報に加え、カウンター等で来館者に直接案内することも、参加者増加に一定の効果があると感じた。イベントだけではなく、見学会や学校お話し会等も実施し、図書館の宣伝に努めた。	B:令和5年度並みの成果であった	引き続き、児童が楽しく本とつながることができるイベントの実施等に努めたい。
(2)-16	○ライフステージに応じた学習機会の充実	しょうがいしゃサービス事業	図書館の利用や情報入手にハンディのある利用者へ、資料・情報の提供をし、生涯にわたる学習を担保するための事業。視覚障害者向け資料の選定・作成依頼、大活字本等の購入、音訳・点訳資料の貸出、宅配サービス、相互貸借(他館との協力による貸出)等を行う。	図書館	しょうがいしゃサービス利用登録者一人当たりの音訳資料、点訳資料平均貸出冊数が131.8冊だった(しょうがいしゃサービス利用登録者数16名、音訳・点訳資料貸出冊数2108冊)。また、対面朗読を4回、宅配サービスを162回実施した。また、2月からは、広く図書館利用に障害のある方を対象としたサービスであるという目的がより伝わるよう、「ハンディキャップサービス」という名称に改めた。	音訳・点訳資料の貸出しを通じ、視覚的な情報入手が困難な利用者にも貢献できた。また、来館が困難な利用者にも宅配サービスを行うことで、読書の楽しさと、生涯学習の機会を提供できた。	しょうがい等があっても、このサービスを通して読書を諦めることなく楽しめることができると嬉しかったというお声をいただく。今後も継続していくべきサービスだと考える。	令和5年度におけるしょうがいしゃサービス利用登録者数一人当たりの音訳資料、点訳資料平均貸出冊数の159.4冊と比較すると数値は減少したが、久しく実績のなかった対面朗読を実施するなど、サービスの幅が広がった一年であった。	B:令和5年度並みの成果であった	図書館利用に障害がある方でも読書を楽しみ、必要とする情報が得られるよう、引き続き丁寧なサービスを行っていく。
(2)-17	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	租税教室	児童・生徒が、租税の意義や役割を正しく認識し、将来、健全な納税者となることを願い、適正な申告と納税の重要性について理解させることを目的とし、教育関係者、国税・地方税当局、税理士会、法人会等との連携・協働の下で、「租税教室」を実施する。	収納課	-	-	-	-	D:令和6年度未実施であった	-

オ)の担当課評価については、以下のA~Dから選択
 A:令和5年度より高い成果があった B:令和5年度並みの成果であった
 C:令和5年度より低い成果であった D:令和6年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和6年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和6年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和6年度の担当課評価	カ)令和7年度の実施方針
(2)-18	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	各種健康相談、健康に関する講話・講演会、啓発など	主に生活習慣病予防を目的に、健康に関する意識啓発、生活習慣や検査データの改善を図るための各種事業を、各種団体とも連携しながら実施する。	健康まちづくり戦略室	保健師・栄養士が関係機関と連携し、各種事業を実施した。 ・SOSの出し方に関する教育 ・ゲートキーパー養成研修 ・薬物乱用防止推進活動 ・健康教育事業 ・ウェルエイジングから測定会 ・女性の健康週間イベント(測定会、講演会) ・市民まつりでのYakultのインセンティブの協力及び、多摩総合医療センターと連携し乳がん予防の啓発 ・地区協議会による薬物乱用防止推進活動の支援、協働	市民の健康増進のために実施する各種啓発・相談事業を通して、市民の健康理解の機会を担保できている。また、事業ごとに関係団体等の協力をいただきながら効果的な推進を図っている。	測定事業や講演会等の参加者からは、健康意識の向上につながったことがうかがえる反応をいただいている。	関係団体等の協力をいただくことで、効果的に事業を進めることができています。	A:令和5年度より高い成果があった	引き続き各種団体等と連携し健康事業を推進していく。また、各事業を必要とする市民に届くよう効果的な情報周知を図る。
(2)-19	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	健康づくり推進員活動支援事業	健康寿命の延伸と健康なまちづくりを目標に、意欲ある市民を健康づくり推進員として登録し、保健師等とともに市民の健康づくりを推進する。推進員には必要な病態、運動、栄養等の知識の習得と健康づくりの実践に努めていただき、地域住民等の自発的な健康づくり活動の展開につなげていく。また、オリジナル体操の普及を推進するため、健康づくり推進員が毎週定期的に公園で開催するほか、地域の団体への出張講習や高齢者事業等で普及を図る。	健康まちづくり戦略室	新たに第8期の15名が登録。計62名の市民に推進員として活動していただいた。養成講座1回、定例会及び現任研修を1回開催。毎週火曜日のオリジナル体操のつどいで中心的に活躍いただいているほか、市の健康イベント事業の運営に協力いただいた。	健康ポイントで包括連携協定を結んでいる、株)つくばウェルネスリサーチに依頼し、全国展開を行っている「健康アンバサダー」も兼ねる養成講座を実施した。また、推進員の方の学習の機会となっている。推進員としてオリジナル体操等の普及に協力いただくことで、より多くの市民に健康増進および学習機会の提供が図られているといえる。	公園で実施するオリジナル体操は、推進員および参加市民にとって有意義な活動の場であるが、近年は夏季の熱中症対策等の課題が生じており、アラート発令時は中止する等の対応を図っている。	毎年度新規で登録いただく市民の方がおり、継続して活動いただく推進員も多くいらっしゃるため、担当課としては健康事業の推進にあたり非常に心強く感じている。推進員の方々にとっても生きがいや学習につながるものとしていただけるよう支援に努める。	A:令和5年度より高い成果があった	引き続き推進員の方々と連携し健康事業を推進していく。
(2)-20	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	国立市青少年海外短期派遣事業	国立市内在住又は在学の中高生を海外へ派遣し、多文化・多様な人種の共生する社会を学習する機会を提供することで、他者理解の意識を醸成すると共に、将来のグローバル社会の担い手としての意識を育成し、世界を舞台に活躍する人材の輩出に寄与する。	児童青少年課	新型コロナウイルスの影響等により事業自体を中止とした。	-	-	-	D令和6年度未実施であった	目的や対象が類似する他事業の実施状況を見ながら再開を検討。
(2)-21	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	ローカルセッション事業	国立市内在住又は在学の中高生を対象に、市内の地域資源等に触れながら、自分たちの活動の相互共有を図ることのできる機会を提供することで、中高生の他者理解や国立市政に対する考えを深め、また社会へ参画する意欲を高める。	児童青少年課	これまでのローカルセッション事業の枠にとらわれず、広い意味で中高生の意見を聴き反映させる取り組みを実施。子どもの権利を保障するための条例「国立市子ども基本条例」の制定に向けて、当事者である子どもの意見を聴取してきた。	「国立市子ども基本条例」の制定に至った。	大人に意見を言ってもいいんだと知った。などという声があった。	当初の計画の基本目標に沿った事業展開が叶わなかった。	A:令和5年度より高い成果があった	「国立市子ども基本条例」の推進を通して、だれも取り残されず子どもが社会参画できる環境整備を整えていく。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
 A:令和5年度より高い成果があった B:令和5年度並みの成果であった
 C:令和5年度より低い成果であった D:令和6年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和6年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和6年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和6年度の担当課評価	カ)令和7年度の実施方針
(2)-22	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	子ども観劇会事業	文化・芸術にふれる環境を整え、国立市内在住の小中学生の豊かな成長と地域文化への愛着を促すため、児童青少年課と市民グループを構成員とした「わくわく子どもフェスタ実行委員会」による事業の一環として子ども観劇会を実施する。	児童青少年課	民族芸能やマリンバの演奏(ホール公演)、コマ回しのパフォーマンス、ボードゲームや工作コーナーなどを設け実施。 ・開催日時:令和7年2月16日(日) 10時から16時まで ・来場者数:1,165人(延人数)	市民団体と連携し、子どもを対象とした文化・芸術の様々な体験の機会を提供することができた。	12年間続いているイベントのため、初めて参加した人や毎回参加している人、出演者として関わっていた人など、様々な人が参加し、それぞれに楽しさを感じていたようである。	これまで中心となって運営していた委員の方が替わり、新たな体制となったが、例年通り様々な体験の機会を提供することができ、多くの人に楽しんでいただいた。	B:令和5年度並みの成果であった	令和6年度に引き続き、体験の機会の提供に努め、より多くの人に楽しんでもらえるようなイベントを実施する。
(2)-23	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	稲作体験学習会	市内小学校5年生児童を対象として実施。田植え・稲刈りの他、各校の希望に応じて、稲作体験学習会拡充プランとして社会科の授業へのゲストスピーカーの派遣、調理実習への委員訪問等を行う。	南部地域まちづくり課	市内公立小学校8校の5年生児童を対象に実施した。収穫した米(196キログラム)は各児童に配布した。田植え:6月28日(金)実施 実施予定日、延期日ともに雨のため農業委員会により機械植えで実施 稲刈り:10月24日(木)実施 参加者:8校・531名 授業訪問(ゲストスピーカー):8校・531名	教育委員会、農業委員会、JAとの連携・協働が順調に行われ小学生へ貴重な体験を提供できた。	地場産米や地域農業への関心が高まるとともに、地元農業者との交流をはじめ、新鮮な体験を提供できた。	滞りなく実施できたと考える。稲刈りでは、児童が滞留しない様な運用を徹底し、また各校の訪問授業では、スクリーンを使用した授業を行う等、可能な限りの対応を心がけた。	B:令和5年度並みの成果であった	各種団体と協議・連携しながら、より効果的に事業を実施できる様努める。
(2)-24	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	子ども向け各種運動事業	水泳・サッカーの教室を実施しているほか、東京女子体育大学・東京都多摩障害者スポーツセンターの協力により、様々なスポーツを体験できる「スポーツ子どもの日」を実施する。	生涯学習課	スポーツ子どもの日 ・実施日 R7.2.16 ・参加人数 62人 ・会場 東京女子体育大学 ・種目 体操競技、陸上競技、デフフットサル	翌年度に東京デフリンピックを控え、デフ競技を種目に加え実施した。昨年度の51名から11名の参加人数増となった。	オリンピック・デフリンピック競技に子どもが触れる機会を提供したことについて、アンケートで肯定的な意見を頂いた。	子どもの運動への興味関心を高めるため、オリンピック・パラリンピック競技等の機会の提供を今後も継続していく必要あり。	A:令和5年度より高い成果があった	令和6年度実施予定。安心してスポーツを楽しむことができる機会の提供に努める。
(2)-25	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	ファミリーを対象とした各種運動事業	東京女子体育大学の協力により、ファミリーソフトボール教室を実施する。	生涯学習課	ファミリーソフトボール教室 ・実施日 R6.11.17 ・参加人数 38人 ・会場 東京女子体育大学	大学施設を使用し、例年並みに開催することができた。	オリンピック競技に親子で触れる機会を提供したことについて、アンケートで肯定的な意見を頂いた。	講師佐藤理恵氏には金メダルや聖火トーチを持参してもらい、オリパラ機運醸成とも関連した事業となり、今後も継続していく事業となる。	B:令和5年度並みの成果であった	令和6年度実施予定。安心してスポーツを楽しむことができる機会の提供に努める。
(2)-26	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	しょうがいしゃを対象とした各種運動事業	身近な地域でのしょうがいのある方々のスポーツ活動の推進のため、東京都多摩障害者スポーツセンターと卓球連盟の協力により、卓球教室を実施する。	生涯学習課	卓球教室は開催に関して関係者と協議し、事業中止(開催なし)。一方、しょうがいの有無に関わらずだれでも参加できるポッチャ体験教室を開催したほか、ポッチャくたちカップを開催した。 ・ポッチャくたちカップ参加人数 52名 ・ポッチャ体験教室 200名	一部事業は中止となったものの、生涯学習課が主催するポッチャ関連事業を開催することができ、計画の推進に貢献できた。	しょうがいの有無にかかわらず、様々な方が同一の競技に関わる機会を得られたことへの好意的な意見を頂いた。	東京パラリンピック開催により、パラスポーツへの理解や関心が高まったと感じる。ポッチャをはじめ市民が気軽にパラスポーツに取り組むことができる機会の創出が求められる。	B:令和5年度並みの成果であった	卓球教室については東京都多摩障害者スポーツセンターと協議し開催を判断。ポッチャやモルックなど、しょうがいのある方々が安心してスポーツを楽しむことができる機会の提供に努める。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
 A:令和5年度より高い成果があった B:令和5年度並みの成果であった
 C:令和5年度より低い成果であった D:令和6年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和6年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和6年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和6年度の担当課評価	カ)令和7年度の実施方針
(2)-27	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	人権週間イベント	あらゆる差別や偏見の存在しない「人間を大切に作る」まちづくりを推進するため、人権週間に合わせてイベント(講演会、映画上映会、パネル展等)を行う。	市長室	「くにたち人権月間2024」として、11/10～12/10の期間中に、講演会、展示、ワークショップなど約16個の企画を実施し、延べ約1,500人に対し啓発。	様々な人権課題をテーマとして扱うことや、講演会、映画上映、ワークショップなど多彩な企画を実施することで、より多くの市民等に参加を促すことができた。また、会場全体を終日貸し切りで企画を実施することで、複数の企画への参加につなげることができた。	実施に当たっては、当事者や市民との協働により多くの打ち合わせを実施し、様々な意見を踏まえて企画を実施した。	市内出身の宇梶剛士さんの講演会ということで、多くの市民に参加いただけ、人権啓発のすそ野を広げることができたが、まだまだ子どもたちや若い世代の参加が少なく、課題として残った。令和5年度の振り返りをもとに、企画数を少し絞り、より十分に企画内容に関わることができたが、まだ内容への関わりが十分でない点もあった。	B:令和5年度並みの成果であった	持続可能に啓発を行っていくためにはさらなる企画数の厳選や一層の内容充実、より広い世代が参加するための工夫が必要であり、創意工夫を行いながら効果的な啓発に努める。
(2)-28	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	平和事業	国立市平和都市宣言の趣旨に沿って、市民の平和意識の啓発を目的としたイベント(講演会、映画上映会、パネル展等)をくにたち平和の日等に開催する。	市長室	くにたち平和の日企画としてアニメーション映画の上映、「原爆の絵」、「ふつうの日になったのか原爆の日」の展示(6/22)、市長と語るタウンミーティング(6/23)を実施。「ふつうの日になったのか原爆の日」展として、一行のコトバを募集(1,337作品応募)し、「原爆の絵」と合わせて展示(8/2～8/15)。矢川プラスにて絵本の読み聞かせとの特別企画を実施。また、東京大空襲企画として、絵本「またあしたあそぼうね」展、講演会を実施。	学校単位での取り組みについては、市内公立小中学校では全校で体験者講話、伝承者講話の授業が毎年継続して実施できている。一般参加者向けの企画では、関心の高い高齢層の参加が中心となる傾向があり、関心の薄い層に向けた取り組みも強化していきたい。	一部の学校では、伝承者講話を聞いてからコトバの記入に繋げるなどの取り組みが行われているようだが、大半の学校では「一行のコトバ」が授業の中でどのように組み込まれているか定かでない。効果的な学習支援のために、取組状況や学校側の要望等を把握していきたい。	係内の他事業とコラボさせることで、参加者層に変化が見られたため、他事業とコラボも含め、様々なテーマで啓発を行っていく。	B:令和5年度並みの成果であった	くにたち平和の日企画で、子どもも楽しめるアニメーション映画上映会を通じて対話や平和について考えてもらうなど、若い世代にも広く参加してもらえるような企画をおこなっていく。
(2)-29	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	文化・芸術の視点を取り入れた人権・平和啓発事業	人権・平和施策をより広く発信していくため、平和コンサートや平和文学賞など、特に文化・芸術振興の視点を取り入れた人権・平和の意識啓発を図る。	市長室	「くにたち人権月間2024」において、服装(ファッション)と人権をテーマに様々な当事者が発信した。	誰もが着用する服装(ファッション)に関する発信をすることで、様々な人権を身近に感じてもらう啓発事業として実施することができた。	アイヌ民族、在日コリアンなどのアイデンティティとしての民族衣装から職業としての服装など様々な視点があり、人権を考えるきっかけとなったとの声があった。	人権という難しいテーマを、芸術・文化の観点から啓発につなげることができ、子どもたちも一定数参加するなど幅広い世代に啓発することができた。	B:令和5年度並みの成果であった	持続可能に啓発を行っていくためにはさらなる企画数の厳選や一層の内容充実、より広い世代が参加するための工夫が必要であり、創意工夫を行いながら効果的な啓発に努める。
(2)-30	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	女性と男性及び多様な性の平等事業	女性と男性及び多様な性の平等参画を推進することを目的として、男女共同参画推進週間等に合わせてイベント(講演会、映画上映会、パネル展等)を行う。	市長室	くにたち男女平等参画ステーション・パラソルにて、パネル展(8回)、情報誌発行(2回)、小中学校への出前講座(2回)、交流会「ふらっと!しゃべり場」(24回、各回10人程度)等をおこなった。	くにたち男女平等参画ステーション・パラソルでは、小中学校と連携した児童・生徒、教員、保護者向けの講座を継続して実施しており、学習環境の支援に取り組んでいる。	令和4年9月から開始した座談交流会「ふらっと!しゃべり場」では、月1回から令和6年度寄り月2回定期開催することにより、リピーターも定着しており、ジェンダーや多様性についての考えやモヤモヤを共有することで、新しい気づきを得られるといった声がある。	令和5年5月に実施した「ジェンダー平等に関する市民意識調査」では、くにたち男女平等参画ステーション・パラソルの認知度が約10%と低く、企画の利用率も低い状況であり、広がりが課題である。夏休みには、子どもたちが多く集まる矢川プラスにて小中学生向けの「夏休みジェンダー教室」を開催することができた。	B:令和5年度並みの成果であった	8月に矢川プラスにて開催する、小中学生向けの「夏休みジェンダー教室」についてえあ、夏休み前に広報し、講座の利用者層を広げるように取り組んでいく。

オ)の担当課評価については、以下のA~Dから選択
A:令和5年度より高い成果があった B:令和5年度並みの成果であった
C:令和5年度より低い成果であった D:令和6年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和6年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和6年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和6年度の担当課評価	カ)令和7年度の実施方針
(2)-31	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	防災出前講座	受講希望者が聞きたい内容に合わせて防災出前講座を実施。防災意識等の高まりから市民や団体等からの開催要望が多く、引き続き様々な機会を捉えて、周知をしていく。	防災安全課	33回の講座を開催(講師派遣を含む。)した。	昨年度に比較して講座の開催回数が増え、市民への学習機会が増えた。	防災意識の高まりがみられる。引き続き、市民や団体のニーズに沿った講座を開催していく。	地域住民主体の依頼が多く、自助・共助の重要性を伝えられた。	A:令和5年度より高い成果があった	幅広い年代の市民の意識啓発を行えるよう引き続き取り組んでいく。
(2)-32	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	各種防災訓練等	各防災機関や市民等が、とるべき防災活動を実践及び防災対策について習熟し、防災機関が相互の連携体制を確立するため、各種訓練を実施していく。	防災安全課	総合防災訓練(防災フェスタにたち)のほか各種訓練を実施した。	地域との合同訓練を複数実施し、コロナ禍以前の実施形態に近づけることができた。	もっと地域住民が中心となって訓練するのがよいという声もあり、主体的に習熟しようとする市民が多かった。	一部地域との合同訓練には、小学校の児童も参加し積極的に学びを得ていた。引き続き連携を強めていきたい。	A:令和5年度より高い成果があった	コロナ禍以降、令和6年度から再開した地域との合同訓練をより充実させ、連携体制を強めていく。
(2)-33	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	健康ウォーキングマップ普及事業	ウォーキングによる健康づくりを推進するため、市民のワーキンググループである「ウォーキングマップづくりの会」と市が協働で、市内の見所や健康情報を掲載した全9コースからなる健康ウォーキングマップを作成。このマップを活用し、市民の方々にウォーキングを楽しんでもらう。	健康まちづくり戦略室	配布・販売数3,065部	基本目標「学習機会の充実」に関して、市内の見どころと歩きやすいコースを提示することで、歩きたくなる環境づくりを行った。また、小中学校には学習教材としての配布も実施した。	9コースを1つにして見やすい場所を分かりやすく表示したことが好評であった。	改訂し、新たに手に取っていただく機会が増えた。休憩できる公共施設とトイレの場所を分かりやすく表示することで、ニーズに対応した内容となった。	A:令和5年度より高い成果があった	増刷する際にはトイレに関して多目的トイレを分かりやすく表示するよう修正を行う。
(2)-34	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	住宅地等安全緑化推進事業(ガーデン講習会)	緑の基本計画に基づく、市街地の緑化推進事業の一環として、緑化や園芸について学ぶ場を提供するとともに、防災や交通安全の視点も含んだ安全緑地の考え方を広く市民に浸透させ、民有地緑化を推進することを目的とする。	環境政策課	これまでに「くにたち緑のサポーター」ベーシックコースを受講した方を中心に、樹木の外観診断・桜の樹勢等の診断を学ぶアドバンスコースを開催し、3名が受講した。また、オンラインによるベーシックコースを開講し、8名が受講した。	緑化等についてのより専門性の高い学びの場を設けることはできたが、参加者増に向けた広報については検討の余地がある。	オンライン講座による基礎的な学びに加え、実地による講習を実施したことで、参加者からは非常に好評であった。	緑化等についてのより専門性の高い学びの場を設けることはできたが、参加者増に向けた広報については検討の余地がある。	B:令和5年度並みの成果であった	引き続きアドバンスコースの開講を予定している。
(2)-35	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	廃棄物処理施設見学会	市民から出される廃棄物処理の流れを理解してもらい、ごみの減量・資源化を推進するため、廃棄物処理施設の見学を行う。	ごみ減量課	施設見学会は公私立小学校及び大学関係者、高齢者の会等計11団体を実施した。	事業を継続したことにより、様々なテーマや課題に対応した学習の支援につながった。	小学校関係者は毎年実施しており大変好評であった。	団体での申し込みがやや増加した	B:令和5年度並みの成果であった	継続にて実施しつつ広報活動を強化していく。
(2)-36	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	家庭用生ごみ処理容器「ミニ・キエーロ」モニター講習会	家庭から出る生ごみを減量するため、「ミニ・キエーロ」の使い方等を説明するためのモニター講習会を行う。	ごみ減量課	講習会8回行い、16名が参加した。	家庭から出る生ごみの減量、消える実感やごみの分別意識の向上につながった。	生ごみを減り、ごみを出す回数が減った、分別する意識が変わったとの声があった。	関心がある市民には一定程度の普及効果があった。同じPR方法で参加者が減少していることが課題。	B:令和5年度並みの成果であった	継続して、市民に関心を持ってもらえるよう普及活動を続ける
(2)-37	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	種まきから収穫までの農業体験事業	農業のノウハウを学びながら、種まき、草取り、収穫を通して体験する。	南部地域まちづくり課	計23回の体験を実施(全て土曜日)。参加延べ人数は485名であった	収穫のみ行う1DAYイベントとは異なり、種まき、草取り、収穫等、長期的な視座で農業に触れていただく機会を創出できた点は、参加者から大変好評を得たと考える。時間が経過する中で、講師(農業者)とだけではなく、参加者同士の交流も活性化され、市内農業や地場産野菜を支援する輪が広がる点にも期待できる。	各参加者は、自身が種まきや苗植えから携わり育てた野菜を収穫できる点について、非常にやりがいを感じていた。また、各参加者の学習意識は非常に高く、作業の合間に農業者から教授されるノウハウ等には、常に熱心に聞き入っていた。回を重ねる中で、参加者同士が顔見知りとなり、野菜作りをテーマにしたコミュニティが形成されていく点も、大きな楽しみとなっていた様に感じられる。	通年を通して、非常に満足度の高い事業を展開できたと考える。体験日以外の作業や準備には相当の時間・労力が割かれるため、職員の役割分担をはじめ、業務効率化に向けた仕組みを検討していきたい。	B:令和5年度並みの成果であった	令和6年度同様に事業実施する。

オ)の担当課評価については、以下のA~Dから選択
 A:令和5年度より高い成果があった B:令和5年度並みの成果であった
 C:令和5年度より低い成果であった D:令和6年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和6年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和6年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和6年度の担当課評価	カ)令和7年度の実施方針
(2)-38	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	収穫と調理体験事業	講師を招き、市内農園で自ら収穫した野菜と一緒に調理する。	南部地域まちづくり課	1回実施。参加人数は8名であった。	小規模ながら参加者にとっては、貴重な学習機会となった様に感じられる。	収穫と調理を一度に行える体験は、好評であった。	小規模ながら料理系イベントを実施できて好評であった。	B:令和5年度並みの成果であった	令和6年度同様に事業実施する。
(2)-39	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	お米農家の見学と田園散策	案内人の解説を受けながら、お米農家や用水など、南部地域の田園地帯を散策する。	南部地域まちづくり課	1回実施。参加人数は13名であった。	その他の収穫系イベントとは異なり、他要素(環境政策的)と連携して実施できた点は、参加者にとっても新鮮な学習機会となった様に感じられる。	実際に水生生物を発見できた際は、参加者から驚きや喜びのリアクションがあった。さらに近年の気温の上昇との関係性を、実際の田んぼの様子を見ながらレクチャーしていただく事で、環境学習にも発展し、好評だった。	「農業(稲作)」と「水環境(水生生物)」という2つの趣旨に沿って、自然学習講師、指導農家さんともに説明してもらった。アンケートには今までも増して好評であった。農のイベントとしての性質をより高められるよう工夫したい。	B:令和5年度並みの成果であった	令和6年度同様に事業実施する。
(2)-40	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	地域に開かれた学校教育	現在の学校を知り、学んでもらうため、学校公開、道徳授業地区公開講座、セーフティ教室を実施する。	教育指導支援課	全市立小・中学校において、学校公開や道徳地区公開講座、セーフティ教室を実施した。	各校が工夫し、学校活動を実施できた。道徳地区公開では、児童・生徒、学校のニーズやテーマに合った講師を招き、行った。	すべて参集型で開催し、実際に地域や保護者が学校に訪問し、学校の様子を知る機会となった。	地域の方々や保護者が直接来校する機会があることで、学校への理解、協力へとつながっている。	B:令和5年度並みの成果であった	引き続き、地域や保護者に開かれた教育活動を行っていく。CS導入校も増えるので、保護者が学校の教育活動に参画する機会を増やしていく。
(2)-41	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	人権、平和、憲法、環境、多文化共生などの事業	現代社会の課題を考えることを目的に、普遍的な課題や時事的な社会問題などの様々な学習機会を提供する。	公民館	平和(2回)、人権(3回)、ジェンダー・セクシュアリティ(1回)、性教育(4回)、環境(1回)、多文化共生講座(2回)等の現代社会の課題を考える講座を実施。	様々な切り口から、平和、人権、近現代史などを身近な課題として捉え考えるきっかけとなる学習機会を提供することができた。	フィールドワークなども実施し、市民・利用者の学びの方法や機会を広げることができた。また、多文化共生講座では、日本語を母語としない方の視点を得ることができたとの声があった。	一つのテーマを多角的に学ぶことができるよう、フィールドワーク等も含めた発展的な講座の構築を試行した。	B:令和5年度並みの成果であった	引き続き、多角的な学びの提供を目指し、多様かつ関連性を持たせた講座を展開したい。
(2)-42	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	地域課題・教育機関連携事業	まちを知る、地域から学ぶこと、地域の高等教育機関との連携などを目的に事業を展開する。今後も社会教育施設として、目的に沿った多様な学習機会を提供する。	公民館	一橋大学連携講座(1回)、地域史講座(1回)、地域防災講座(1回)等、社会教育学習会(1回)、公民館プレ70周年(3回)、また一課三館連携事業(5回)地域のサークルや大学等と連携して講座を開催した。	地域のサークルや大学、集まった市民と連携しながら、公民館だけではできないような学習機会を提供できた。	一課三館連携事業による「まちじゅう本棚」ではだれでも自由に本の交換ができることから、図書室等で本を借りるだけでは出会えなかった本に出会えたという声が聞かれた。	普段公民館を利用する方はもちろん、だれもが気軽に公民館に立ち寄り、新たな出会いや学びを得られる機会となるよう企画の開催場所や方法を工夫した。	A:令和5年度より高い成果があった	地域課題を体感できる講座の組立てを継続する。
(2)-43	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	社会・人文学習事業	社会を見つめ、文化をつくることを目的に事業を展開する。今後も社会教育施設として、目的に沿った多様な学習機会を提供する。	公民館	図書室のつどい(12回)、ブッククラブ(8回)、作家と作品(1回)、映画会(8回)、古典講座(5回)、現代詩(1回)、哲学講座(5回)、文化芸術講座(3回)等を実施。	文学や映画、哲学など様々な角度から企画をし、現代社会の問題や文化について考える機会を提供できた。	連続講座として実施することで、作品やテーマ、描かれている社会的課題などを深く考える機会となったという声が聞かれた	図書室のつどいなどの公民館講座の入口として参加しやすい講座をきっかけとして、ブッククラブや作家と作品といった連続講座に来ていただく方もいるので、学びや人と人のつながりがひろがるよう、関連する講座なども紹介できるように心掛けたい。	A:令和5年度より高い成果があった	引き続き、多角的な学びの提供を目指し、多様かつ関連性を持たせた講座を展開したい。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
 A:令和5年度より高い成果があった B:令和5年度並みの成果であった
 C:令和5年度より低い成果であった D:令和6年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和6年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和6年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和6年度の担当課評価	カ)令和7年度の実施方針
(2)-44	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	表現学習事業	表現と創作を楽しむことを目的に事業を展開する。今後も社会教育施設として、目的に沿った多様な学習機会を提供する。	公民館	身体表現ワークショップ(8回)、銅版画(5回)、子育て短歌(9回)、文章表現(7回)等を実施。	身体を動かす、絵を描く、短歌を詠む、文章を書く等様々な切り口から表現と創作を楽しむ機会を提供することができた。	「仲間ができたり今まで知らなかった自分を発見することができた」など表現を通じて様々な出会いや、自分自身を内観する機会を得ている声が多数聞かれた。	身体表現ではクリスマス会(発表会)、銅版画では展示会、歌集の発刊等、発表の機会を持つことができた。また講座後、銅版画、子育て短歌、文章表現では自主グループができた。	A:令和5年度より高い成果があった	引き続き、個人・グループの伸びやかな自己表現の場となるよう、多様な表現活動の提供を図る。
(2)-45	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	公民館図書室・地域資料収集事業	読書活動振興および講座関連図書を周知するため開室している。今後も図書室業務の機能充実および推進を図る。	公民館	公民館主催講座に関連する書籍の受入、現代社会における課題に関する資料や地域資料の継続的な収集・整理・保管を実施。	公民館で実施する市民が参加できる講座や催し物のテーマ・内容に関連した本を優先して収集・紹介し、市民の学びを深めることにつながっている。	講座に関する知識をより深めることができる、地域の活動の一端を知ることができる、などの声があった。	公民館主催事業と関連し特設コーナーを設け書籍の展示を行ったり、拡がりのある学習機会の提供に努めた。	B:令和5年度並みの成果であった	引き続き公民館活動への“入り口”として、グループ活動・主催事業への関心の喚起や、市民が資料を通じて学びを深め、豊かな人間関係を育む援助となることを目指す。
(2)-46	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	図書館企画事業	講演会や講座、行事等を企画し、市民、利用者が自ら学び、活動できる機会を提供する。	図書館	中央図書館開館50周年を記念し、様々な事業を実施した。50周年事業を含め、講演会等を75回実施した。	講演会等を行い、市民に対して学習の機会を提供することができた。聴講型のイベントだけでなく、市民参加型の事業も複数実施した。	本について語り合う事業の参加者からは、「語り合いを通じて世界が広がった」という声があり、受講が読書推進につながっているようだった。シリーズ化を希望される事業もあり、概ね好評だった。	開館50周年ということもあり、令和5年度(55回)に比べ実施回数の成果が上がった。また、市民が主体的に参加できるイベントも行うことで市民同士の交流も生まれ、より深い学びにつながったのではないかと考える。	A:令和5年度より高い成果があった	引き続き、市民の学びにつながる講演会、講座等の企画・開催に努める。
(2)-47	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	わくわく塾くにたち	市の職員が市政の現状や課題、政策内容などの情報や職務で得たノウハウ等を地域グループ、サークル等主催の学習会に出向き、講座を行う。	生涯学習課	令和6年度は10件の利用があり、延べ161人が参加した。講座の新設:3件	さまざまな講座メニューを用意することで、市民が行政課題を身近に考えていただくきっかけとなっている。	「大変勉強になった」と多くの市民から感想いただいた。	令和5年度より、利用件数、は減少したが、利用者数は増加していた。	B:令和5年度並みの成果であった	引き続き、市民を引き付けられるような講座メニューの新設等を検討する。
(2)-48	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	文化芸術推進事業	現在策定中の(仮称)文化芸術推進基本計画に沿って文化芸術施策を展開する。	生涯学習課	文化芸術サロンの開催、くにたちアートプロジェクト(Kunitachi Art Center、ラジオ下神白上映会など)を行った。	年間を通じて、市民が参加できるイベントが実施できた。	運営に協力してくれる市民の方が増えてきた。	年度全体で各種事業を展開でき、新たな交流も生まれてきた。	A:令和5年度より高い成果があった	引き続き、アートプロジェクトの開催を行っていく。特に拠点を活用した事業を増やしていく。
(2)-49	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	くにたち原爆・戦争体験伝承者による講話活動	被爆体験や戦争体験を次世代へ伝えるため、市内の被爆者・戦争体験者の体験と平和への願いを語り継ぐ「くにたち原爆・戦争体験伝承者」による講話を市内公共施設や小中学校等で開催する。	市長室	定期講話を15回(1日に複数回実施)、派遣講話を51回、学校講話を市立小学校8校・市立中学校3校で実施。伝承者を対象にしたフォローアップ会議(研修等)を3回実施。	学校講話は昨年度から実施校が1校増え、各学校での継続的な平和学習に活用されている。	講話を聞いた子どもたちからは、自分も伝承者になってみたいという声が聴かれることもあり、子どもたちの意欲をいかす取り組みを進めていきたい。	令和5年度から、広島原爆・長崎原爆の市外派遣を広島・長崎の両祈念館経由で行うこととなり(国の予算により依頼者の費用負担なしで派遣可能)、派遣講話の件数は増加し、56回となった。	B:令和5年度並みの成果であった	令和7年(2025)年が戦後80年の節目の年であるため、市民にさらに日常における平和を考えるきっかけとなるよう努めていく。
(2)-50	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	「エコール辻東京」料理講習会	地産地消を目的とし、また、消費者啓発を図るため、身近な食材を用いた新しいレパートリーを学ぶ講習会を行う。	まちの振興課	未実施	-	-	-	D:令和6年度未実施であった	令和5年度末にエコール辻東京が市外に移転したことから実施予定なし。

オ)の担当課評価については、以下のA~Dから選択
 A:令和5年度より高い成果があった B:令和5年度並みの成果であった
 C:令和5年度より低い成果であった D:令和6年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和6年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和6年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和6年度の担当課評価	カ)令和7年度の実施方針
(2)-51	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	文化芸術講演会	市民の方々が文化芸術に対する関心を高めてもらうことを目的に、NHK事業部との共催で、美術館・博物館等で行われる企画展と関連する内容の講演会を行う。	生涯学習課	文化芸術講演会を1回開催し、参加者数は95名だった。	コロナ禍で中止していたが、令和5年度から再開し、本重点施策の推進に貢献できた。	参加者に企画展の入場券を配布するため、市民の方に喜んでいただけている。	関心の高い市民に満足いただけたと感じる。今後もより関心の高いテーマのものを実施していきたい。	B:令和5年度並みの成果であった	引き続き、NHK事業部と連携し、実施していく。
(2)-52	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	消費者講演会	消費者団体と共催で、消費者啓発を行うための講演会を実施する。毎年トレンドに合わせてテーマを変えながら、消費者の啓発および自立を図るべく継続実施していく。	まちの振興課	令和7年2月に「ファッションロス」から持続可能な未来を考える」をテーマに講演会を実施し、20名に参加いただいた。	消費生活において密接に関わりのある「衣服」を切り口に、様々な環境問題についても理解を深めていただくきっかけになったと感じる。	当日参加者からは講師に対する質問も多く出て、回収したアンケートからも今回のテーマについて関心が高いことが分かった。	オンライン参加のニーズも一定数あることが分かったため、令和7年度開催時にはハイブリッド開催とした。	B:令和5年度並みの成果であった	令和6年度と同様にテーマ選定のうえ実施予定。
(2)-53	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	大使館訪問スタディバスタツアー	国際理解を深めるため、市内小・中・高校生を対象に、地域国際交流団体の支援を受け、大使館等の国際機関への訪問を実施する。	まちの振興課	令和7年3月にJICA地球ひろばへの訪問バスタツアーを開催し、市内中高生7名の参加があった。	JICAの協力により、市内中高生の国際理解を深めることができた。	国際理解や、JICAの活動への理解を深めることができたという参加者がほとんどであった。	今後は、小学生、中学生、高校生の各々の成長段階にあったプログラム内容を検討する必要があると考える。訪問先についても、過去の訪問先、大使館訪問以外にも検討していく。	B:令和5年度並みの成果であった	令和6年度と同様、児童青少年課と共催でバスタツアーを実施する予定である。訪問先は国連大学の予定。また、プログラムの内容や訪問先等、次年度以降の事業の在り方を検討する。
(2)-54	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	LINKくにたち	スポーツに対して親しみを持ってもらい、また、連帯感や達成感を共有し、市民同士の繋がりを強めることを趣旨として、大学通りでリレーマラソン等を実施する。	まちの振興課	マラソン参加者は約1000人、一般参加者は約5,000人であった。出店は昨年同様、30店舗であった。	市民や団体同士のつながり形成の場を提供できた。事業を無事完了できたことで、連帯感や達成感の共有を強く達成できたと思う。	昨年度に引き続き、開催を喜ぶ声が参加者・来場者双方から多く寄せられた。	担当者の業務負担が大きいため、業務の継続性を考えて業務改善の検討は必要だが、当日は大きなトラブルなく実施できた。	B:令和5年度並みの成果であった	一部業務委託を行う試みを実施したが、担当者の業務負担は殆ど軽減されなかった。組織体制の見直しを改めて検討する。
(2)-55	○各種団体との連携・協働	花と緑のまちづくり事業	総体となる「花と緑のまちづくり協議会」及び主要テーマ毎の検討部会/プロジェクトを立ち上げ、市民委員が主体となり、各々が定期的なMTGや実活動(美化活動やイベント)を実施する。多様なメンバーが結びつきながら、花と緑を切り口に地域内で活躍する機会を提供することができる。	環境政策課	大学通り緑地帯及び市内公園への花植えを、市民ボランティア、公園協力会、市内学校等の協力を得ながら、年二回実施した(延べ約670名参加)。例年実施していたイベント(桜の接ぎ木体験2回等。延べ約120人が参加。)についても実施した。	大学通り緑地帯での定期的な維持管理作業や、年二回の花植え作業のほか、学校と協働した接ぎ木体験、花植えなどを実施した。	大学通り緑地帯や市内公園への花植えについては、道行く市民の方々より、好意的なご意見を多くいただいた。また、各種イベント参加者からも非常に好評を得ている。	新たに市民ボランティアとして活動したいという申し出をいくつも受け、ボランティア増員ともなった。	B:令和5年度並みの成果であった	引き続き市内の各団体等と連携、協力しながら、市内緑化に係る活動を展開していく。
(2)-56	○各種団体との連携・協働	くにたち緑のサポーター養成塾	一般公募による市民と市職員を対象に、緑を適切に保護・育成するための必要知識を学び共有する機会を提供する。講座は全6回で、テーマ毎に大学教授、研究職員、造園家、樹木医、庭園家、市職員が講演を実施。修了試験に合格した市民は「緑サポーター」として登録し、市内の緑の見守り隊や、花と緑のまちづくり事業等で活躍できるよう、フォローをする。	環境政策課	これまでに「くにたち緑のサポーター」ベーシックコースを受講した方を中心に、樹木の外観診断・桜の樹勢等の診断を学ぶアドバンスコースを開催し、3名が受講した。また、オンラインによるベーシックコースを開講し、8名が受講した。	緑化等についてのより専門性の高い学びの場を設けることはできたが、参加者増に向けた広報については検討の余地がある。	オンライン講座による基礎的な学びに加え、実地による講習を実施したことで、参加者からは非常に好評であった。	緑化等についてのより専門性の高い学びの場を設けることはできたが、参加者増に向けた広報については検討の余地がある。	B:令和5年度並みの成果であった	引き続きアドバンスコースの開講を予定している。
(2)-57	○各種団体との連携・協働	他団体と図書館の連携事業	NHK学園の協力のもと、月2回程度、国立市民向けにNHK学園の図書館が開放され、図書や、雑誌、新聞、インターネットの閲覧等ができる。一橋大学サークルの協力により、中高生向け図書の展示や図書リサイクルを実施する。国立本店との協働により、推薦図書の展示や講座・講演会等を開催する。	図書館	・NHK学園との協力事業について随時行った。 ・一橋大学サークルの協力による事業として、中高生向け図書の展示企画を2回行った。	企画等を他団体と行うことで、市役所以外の価値観、視点を取り入れることができるため、市民の学習機会の充実を実現することができた。	一橋大学サークルによる図書の展示はPOPにも工夫が施され、中高生と年齢が近い大学生の選書ということもあり、貸出冊数が増加した。中高生世代の読書推進につながっていると感じる。	NHK学園図書館の利用率はあまり高くない。市民への周知に課題が残る(現在の周知方法は、図書館ホームページと館内掲示)。	B:令和5年度並みの成果であった	引き続き、市内の各団体等と連携、協力しながら、図書館事業のさらなる充実を図っていく。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
 A:令和5年度より高い成果があった B:令和5年度並みの成果であった
 C:令和5年度より低い成果であった D:令和6年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和6年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和6年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和6年度の担当課評価	カ)令和7年度の実施方針
基本目標(3)学習の成果を活かせるサポートの充実										
(3)-1	○発表の場の充実	くにたち市民文化祭	市民の自主的な文化・芸術活動を支援するため、毎年1回文化祭を実施する。今後も文化・芸術活動の場の促進を図る。	公民館	参加団体23団体。紹介展示・オープニング式典・交流会の実施。	令和5年度に比べて新たな参加団体が現れた。参加者・来場者数は前年と同程度であったが、市民の文化活動の機会を確保できた。	公民館利用団体間の直接的な交流の場を提供することができた。	文化祭開催前の1週間、文化祭参加グループによる催し物の紹介展示を行い、期間中も公民館の階段壁面にて掲示をしたことで各グループの活動の一層の周知を図ることができた。	B:令和5年度並みの成果であった	文化祭実行委員会と協働を図り、継続的・安定的な運営を図る。
(3)-2	○発表の場の充実	市民まつり・さくらフェスティバル・LINKくにたち	大学通りや谷保第三公園で行われるまつり・イベント。会場内では、様々な催し物が開催され、来場者が楽しむことができる。舞台等では踊り・歌等が披露されており、各団体にとって日頃の成果の発表の場となっている。	まちの振興課	令和6年4月にさくらフェスティバルを開催し、令和6年5月にLINKくにたちを開催し、令和6年11月に市民まつりを開催したが、大盛況であった。	いずれのイベントも大きなトラブルなく、多くの来場者が訪れ、良い発表の場を提供することができたと考えている。	いずれも開催について喜ぶ声が参加者・来場者双方から多く寄せられた。	予算も非常に厳しい中での開催となったが、外注を最小限に抑える等の工夫を凝らして、結果的に大きなトラブルなく素晴らしいイベントとなった。	B:令和5年度並みの成果であった	イベント役員である市民の高齢化により、R6年度は一部の作業について外部へ委託したが、十分に機能していない為、組織体制の見直しを改めて検討する。
(3)-3	○学習の成果を活かせる場の形成	くにたち原爆・戦争体験伝承者による講話活動	被爆体験や戦争体験を次世代へ伝えるため、市内の被爆者・戦争体験者の体験と平和への願いを語り継ぐ「くにたち原爆・戦争体験伝承者」による講話を市内公共施設や小中学校等で開催する。	市長室	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲
(3)-4	○学習の成果を活かせる場の形成	いきいき百歳体操の普及推進	高齢者の介護予防として筋力向上とコミュニティづくりを推進するため、おもりを使った筋力運動である「いきいき百歳体操」の普及と効果測定を市内保健師連携により図るとともに、自主的に行うグループを増やしていく。	健康まちづくり戦略室	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲
(3)-5	○学習の成果を活かせる場の形成	健康づくり推進員活動支援事業	意欲ある市民を健康づくり推進員として登録し、保健師等とともに市民の健康づくりを推進する。推進員には必要な病態、運動、栄養等の知識の習得と健康づくりの実践に努めていただき、地域住民等の自発的な健康づくり活動の展開につなげていく。また、オリジナル体操の普及を推進するため、健康づくり推進員が毎週定期的に公園で開催するほか、地域の団体への出張講習や高齢者事業等で普及を図る。	健康まちづくり戦略室	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲
(3)-6	○学習の成果を活かせる場の形成	シニアカレッジ研修	高齢化が進む社会の中で、地域で高齢者サロンの開催や生活支援活動を担ってもらえる方、市内の訪問介護・通所介護事業所に従事していただける方を養成する講座を開催する。	高齢者支援課	21回の講座を行い、14名が受講、12名が修了した。	地域での生活支援活動等の担い手を養成する講座を開催することで、学習の成果を活かせる場の形成につながっている。	様々なテーマについてそれぞれの専門家の講義を受けたため、研修に満足したという声が多かった。	受講者の満足度が高い講座を開催することができた。より受講者の地域での活動への参加につながるよう努めたい。	B:令和5年度並みの成果であった	令和6年度と同様に実施する。
(3)-7	○学習の成果を活かせる場の形成	花と緑のまちづくり事業	総体となる「花と緑のまちづくり協議会」及び主要テーマ毎の検討部会/プロジェクトを立ち上げ、市民委員が主体となり、各々が定期的なMTGや実活動(美化活動やイベント)を実施する。多様なメンバーが結びつきながら、花と緑を切り口に地域内で活躍する機会を提供することができる。	環境政策課	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
A:令和5年度より高い成果があった B:令和5年度並みの成果であった
C:令和5年度より低い成果であった D:令和6年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和6年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和6年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和6年度の担当課評価	カ)令和7年度の実施方針
(3)-8	○学習の成果を活かせる場の形成	くにたち緑のサポーター養成塾	一般公募による市民と市職員を対象に、緑を適切に保護・育成するための必要知識を学び共有する機会を提供する。講座は全6回で、テーマ毎に大学教授、研究職員、造園家、樹木医、庭園家、市職員が講演を実施。修了試験に合格した市民は「緑サポーター」として登録し、市内の緑の見守り隊や、花と緑のまちづくり事業等で活躍できるよう、フォローをする。	環境政策課	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲	
(3)-9	○学習の成果を活かせる場の形成	多世代交流・市民サークル交流事業	子どもと大人の世代間交流、異種サークル交流、地域人材活用のため事業を実施する。今後も多様な交流や地域人材の活用を図る。	公民館	会場調整会を公民館利用者連絡会の協力を得て、月1回実施した。	公民館利用者連絡会の活動の場と、会場調整会に参加した団体同士の交流の場となった。	団体同士が実際に会って話し合いにより調整をおこなうことで、お互いが譲り合いの精神の元、時間や場所の移動などの細かな調整を行うことができるという声が聞かれる。	会場予約に重なりがあった団体のみが調整会へ参加する。欠席した団体は、申込キャンセルという扱いになってしまう。1週間前に重なりがあった団体を掲示(館内3か所及びホームページにて)しているが、見落とししてしまう団体が出ないよう、調整会の仕組みについて引き続き公民館だより等で周知していきたい。	B:令和5年度並みの成果であった	引き続き公民館利用者連絡会の協力を得ながら実施していく。
(3)-10	○学習の成果を活かせる場の形成	図書館ボランティア育成事業	図書館サービスを向上させ、市民参画を促すために、研修等によりボランティア(音訳・点訳ボランティア、くにたちお話の会、えほん読み聞かせボランティア等)の育成を図る。	図書館	ボランティア活動回数は677回であった。また、ボランティアの研修会として、中級音訳者養成講座を4回実施し、62名の参加があった。	ボランティア活動を通し、市民が音訳、点訳、読み聞かせ等の各々の学習の成果を継続して発揮することができた。	児童サービス・しょうがいしゃサービスいずれにおいても、利用者が毎回の活動を楽しみされている様子であり、それがボランティアのやりがいにもつながるといいう好循環が生まれているように感じる。	新型コロナウイルスの影響により活動休止中のボランティアもあるが、全体での実施回数は数年前の基準に戻りつつある。	B:令和5年度並みの成果であった	研修会等の機会も積極的に設け、参加を促していきたい。
基本目標(4)施設や場の拡充、職員の専門性の確保										
(4)-1	○施設や場の拡充・市民ニーズに合った施設運営	公民館会場・備品等の貸出事業	市民の自主的な社会教育活動を支援するため実施する。今後も社会教育施設として市民の自主的な学習活動の支援を図る。	公民館	サークル利用が年間で4,382回。備品は、印刷機417回、液晶モニター91回、プロジェクター168回、アンプレット212回等貸出しを行った。	市民のグループ・サークル活動に役立っている。	市民からの要望に応え、館内の公衆Wi-Fiの更新や地下トイレの様式化、いすの購入等を行った。	適宜施設の改修工事や修繕、備品の更新等を行い、利用者の学習環境改善、利便性向上を促進することができた。	A:令和5年度より高い成果があった	引き続き、利用者や公民館利用者連絡会の声を聴きながら、学習環境を整備していく。
(4)-2	○職員の専門性の確保	職員研修の実施	地域住民の主体的学習の促進、計画・事業等の企画立案、地域の様々な情報の収集・分析・提供、組織化援助、関係者(機関)との連絡調整、地域における指導者等の人材育成の能力を育成するような研修を実施する。	職員課	—	—	—	—	D:令和6年度未実施であった	市民の生涯学習につながるような内部研修を他部署と連携し、職員研修として検討したい。また、地域の生涯学習に役立つ外部研修が実施される場合には、職員の派遣を検討したい。

オ)の担当課評価については、以下のA~Dから選択
 A:令和5年度より高い成果があった B:令和5年度並みの成果であった
 C:令和5年度より低い成果であった D:令和6年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和6年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和6年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和6年度の担当課評価	カ)令和7年度の実施方針
(4)-2	○職員の専門性の確保	職員研修の実施	地域住民の主体的学習の促進、計画・事業等の企画立案、地域の様々な情報の収集・分析・提供、組織化援助、関係者(機関)との連絡調整、地域における指導者等の人材育成の能力を育成するような研修を実施する。	生涯学習課	具体的な研修は未実施。	実施できなかったため、計画の推進に貢献できなかった。	特になし。	未実施のためなし。	D:令和6年度未実施であった	目的に叶った職員演習を実施する。
(4)-2	○職員の専門性の確保	職員研修の実施	地域住民の主体的学習の促進、計画・事業等の企画立案、地域の様々な情報の収集・分析・提供、組織化援助、関係者(機関)との連絡調整、地域における指導者等の人材育成の能力を育成するような研修を実施する。	公民館	・前年度に引き続き東京都公民館連絡協議会に加盟し、年33回、48名が部会(5部制)や他研修等に参加した。 ・東京都公民館連絡協議会主催の研究大会について、開催市として企画や運営を中心的に担い、当日は職員9名が参加した。 ・大学教授を講師を迎え「学びあいを支える実践力」について職場内研修を実施し、10名が参加した。	・地域住民が行う学習活動を支援するうえで、必要な知識や技術、経験を得ることができ、職員各員の資質が向上したと評価している。	・東京都公民館連絡協議会加盟市同士での研修を通して共通の課題や、隠しの固有の課題を共有でき、今後の講座運営等に役に立ったという声があった。 ・地域住民が行う学習活動を支援するうえで必要な知識を得る機会が得られたという声があった。 ・研究大会においては、開催市職員や加盟市職員の負担を軽減し開催したが、概ね十分な学びを得ることができたとの感想が寄せられた。	・東京都公民館連絡協議会では加盟市各市との貴重な情報交換の場となっていると共に、職員の専門性向上につながっている。 ・研究大会は東京都公民館連絡協議会加盟市持ち回りで担当するものだが、企画・運営・実施後のとりまとめなどの取り組みを通じて職員の専門性向上につながった。 ・職場内研修では職員の講座実践報告を元にグループワークや講師講評などを受け、専門性を深めることができた。	A:令和5年度より高い成果があった	・講師都合で延期となった1課3巻連携事業における研修を実施する予定。 ・開館70周年記念事業を実施するにあたり、市民との協議会などを多く開催する予定であることから、実践的な学びを得ながら専門性を高めていく機会としたい。
(4)-2	○職員の専門性の確保	職員研修の実施	地域住民の主体的学習の促進、計画・事業等の企画立案、地域の様々な情報の収集・分析・提供、組織化援助、関係者(機関)との連絡調整、地域における指導者等の人材育成の能力を育成するような研修を実施する。	図書館	レファレンス研修、資料保全研修、子供の読書に関する講座(児童図書館専門研修)に計4名が参加した。	経験値の高い講師による実践的な研修、他自治体職員との情報交換により、図書館司書としての能力向上につながった。	レファレンス研修などの実践的スキルを習得できる研修は、日頃の市民サービスに直結するため、特に有用性が高いと感じる。	外部研修では、他の自治体職員との情報交換を行えることもメリットの一つである。内部だけでなく、外部の研修への積極的な参加も目指し、市民サービスに還元できるようにしたい。	B:令和5年度並みの成果であった	市民の生涯学習を支える図書館員として必要なスキルを育成するため、多様な研修の積極的な受講を目指していく。
基本目標(5)適切な事業評価方法の検討										
(5)-1	○生涯学習や社会教育の役割や効果を表すことのできる評価方法の検討	事業評価方法の検討	生涯学習振興・推進計画の中間評価、終了時の評価をするにあたり、定量評価と定性評価の両面からの評価をするため、評価方法の開発について検討します。	生涯学習課	中間評価を実施した。	中間評価では、定性・定量両面からの評価が行えるよう検討した。	社会教育委員の会より、定量評価がなされていないという意見をいただいた。	社会教育委員の会からの意見を踏まえて、終了時の評価を行っていく。	B:令和5年度並みの成果であった	計画終了時の適正な評価に向けて、引き続き評価方法の開発について検討していく。